

(電子メール施行)
農技第1257号
平成28年7月21日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成28年度病虫害発生予報第3号を發表します。

平成28年度病虫害発生予報 第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(葉いもち)	平年並	やや少
	紋枯病	平年並	やや少
	縞葉枯病	平年並(一部でやや多)	平年並(一部でやや多)
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	セジロウンカ	平年並	平年並
	トビイロウンカ	やや少	やや少
	斑点米カメムシ	平年並	平年並
	イネツトムシ	平年並	平年並
	フタオビコヤガ	やや少	やや少
	コブノメイガ	やや少	やや少
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(7月23日から8月22日までの天候見通し)

平成28年7月21日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

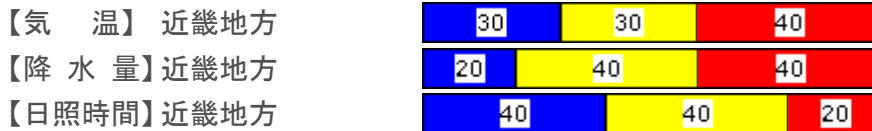
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

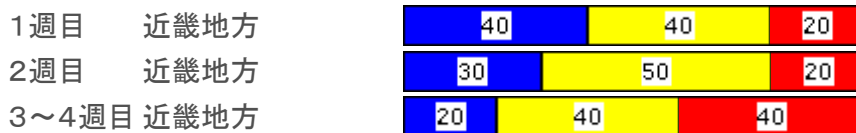
週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 7月23日(土)～ 8月22日(月)
- 1週目 : 7月23日(土)～ 7月29日(金)
- 2週目 : 7月30日(土)～ 8月 5日(金)
- 3～4週目 : 8月 6日(土)～ 8月19日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（葉いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場の調査では発病は確認されていないが、7月上中旬の現地ほ場の調査では、63地点、136ほ場のうち、17ほ場(12.5%)で発生が確認されているがその程度は低い。今後の気象条件は、気温は平年並～やや高く、降水量は平年並～やや多く、日照時間は平年並と予想され、本病の発生を助長する要因は少なく、平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場の調査では発病は確認されていないが、7月上中旬の現地ほ場の調査では4ほ場(2.9%)で発生が確認されている。今後、気温の上昇と共に水平・垂直進展があると考えられるが平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並（西播磨の一部地域でやや多）
(2) 予報の根拠

5月下旬～6月上旬にコムギの調査定点から採集した県内のヒメトビウンカ第1世代虫の同病ウイルス保毒虫率は、平均2.0%と昨年（3.1%）に比べやや低かった。しかし、定点以外の調査では、西播磨の一部など高い保毒虫率の地域もあるため、注意が必要である。

- (3) その他

今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県立農林水産技術総合センター病害虫部ホームページ（<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>）を参照されたい。

4 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内ほ場、7月上中旬の現地ほ場の調査では、発生量は平年並であった。しかし、ヒメトビウンカの成育は平年より1週間程度早かったため、水田への飛来する期間は長かったと考えられ、今後の気温の上昇と共にイネでの増殖がやや多くなると考えられる。

イ 前年度に縞葉枯病が多発したほ場周辺では、今後とも注意が必要である。

5 【セジロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の場内ほ場、7月上中旬の現地ほ場の調査で広範囲に発生を認めているがその量は少ない。

イ 今年は5月中旬から飛来があったが現時点では飛来数は少なく、一部ではその後の増殖が早い地域もあるが、今後の気温の上昇に伴い、平年並で推移すると考えられる。

6 【トビイロウンカ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

県内の3カ所に設置している予察灯への飛来、及び場内ほ場での発生は確認していないが、一部の現地ほ場（丹波地域）において7月上旬に成虫の発生が確認されている。

7 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場、7月上中旬の現地ほ場の調査等で発生を確認しており、今後の気温の上昇に伴い、ある程度の密度増加が進むと考えられる。

8 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場での発生は確認されておらず、7月上中旬の現地ほ場での発生もわずかであるが、今後の気温の上昇に伴い8月以降にはある程度の発生が予想される。

9 【フタオビコヤガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

7月上旬の場内ほ場での発生は確認されておらず、7月上中旬の現地ほ場での発生もわずかであり、低密度で推移すると考えられる。

10 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

県内の予察灯への飛来、及び場内ほ場での発生は確認しておらず、7月上中旬の現地ほ場での発生もわずかであり、今後新たな飛来があっても低密度で推移すると考えられる。

11 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月上旬の県予察ほ場、及び県下3カ所の予察灯で、アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ等の各種カメムシ類の発生を確認している。その他の現地ほ場においても、カスミカメ類を中心とした各種斑点米カメムシ類を確認しており、今後の気温の上昇、イネの生育に伴い平年並の発生で推移すると考えられる。

野菜共通（アブラナ科野菜）

1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

加西市、三原市におけるフェロモントラップ調査では誘殺数はやや多く、6月下旬から7月中旬にかけて顕著な誘殺ピークが認められ、今後の気温の上昇に伴い発生はやや多くなると予想される。

果樹共通

1 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

7月上旬までのフェロモントラップ及び予察灯への誘殺量は平年に比べやや多く、今後の気温の上昇に伴い、各種カメムシ類の活動は盛んになると考えられ、果実加害が増えるおそれがあるので注意すること。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)